

調べることである。これは段落わけとして学習することにはじまる。

段落の指導を主目的とする中学年と、段落を意図をとらえるための過程とする高学年では、指導の上でとらえ方がちがってくる。中学年において形式的な段落から意味やことがらのまとまりとして段落をとらえることに発展し、高学年は主題の仮定を検討するために展開のしかた（段落）を考えるのである。

#### ⑤ 要点・要旨を読みとる。

段落をとらえて、その中のだいじな文や語を読みとることは中学年のねむらいである。だいじな文や語をとらえるためにはことばや文を主題との関係から考えなければならない。つまり、問題意識を持って文章に接すると、鍵になる文や語がはっきりする。これを意味の焦点化というひとともいる。

段落の要点をとらえたら、これを主題との関係からまとめる。これが要旨である。まとめるという方法的な言い方としては要約するともいう。

#### ⑥ 主題・意図を読みとる。

構想・要点を読むことに支えられて主観がいっそう深められる。意図は言語面にあらわれ、主題は行間にあらわれている。従って主題の場合は読者の主題が作用する。ここに「主観を通した普遍性を求める」ようなくふうが必要である。

#### (3) 指導の留意点

読みを支えるものは、ことば意識であり、文意識である。そして読みの方向を決定するものは問題意識である。こうした意識を自分自身の問い合わせとして、その答えを自分自身で発見することが、読解を高めるだいじな要因である。

このためには、教師の問い合わせ、板書などを、できるだけ内容本位の考え方から脱却して、ことばの働きを機軸として展開するようにしなければならない。子どもの話合いも、文に即して内容を得るために重要なことばの働きを見つけることに焦点を置くようにしなければならない。

#### e, 指導効果

これについては、目下検証中である。現在までの過程では、「ことばに関する」「読解」「鑑賞」に有意の差が認められるような見通しが立ち、「文字」「語い」については顕著なものが見られない。

#### b, 小・中学校調査結果

##### (1) 個人得点の相対度数

| 種別  | 区分 | 点数  |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |     |     |     |     |     |     |     | 計%  |      |
|-----|----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
|     |    | 0~  | 5~  | 10~ | 15~  | 20~  | 25~  | 30~  | 35~  | 40~  | 45~  | 50~  | 55~ | 60~ | 65~ | 70~ | 75~ | 80~ | 85~ | 90~ |      |
| 小学校 | 社会 | 2.1 | 5.0 | 5.8 | 7.9  | 8.8  | 8.5  | 8.8  | 6.7  | 7.2  | 6.6  | 6.2  | 5.3 | 4.0 | 3.4 | 3.5 | 2.9 | 2.3 | 1.5 | 2.0 | 1.5  |
|     | 理科 | 0.2 | 0.4 | 0.4 | 1.3  | 2.6  | 5.0  | 7.2  | 10.3 | 12.0 | 11.9 | 10.2 | 9.7 | 6.9 | 6.4 | 4.5 | 3.3 | 2.7 | 2.2 | 2.1 | 0.7  |
| 中学校 | 社会 | 0.4 | 1.2 | 5.6 | 11.5 | 14.5 | 13.3 | 12.3 | 9.4  | 7.0  | 6.9  | 4.1  | 3.4 | 2.7 | 1.6 | 2.5 | 1.6 | 1.1 | 0.6 | 0.2 | 0.1  |
|     | 理科 | 0.5 | 0.4 | 0.4 | 1.7  | 3.8  | 6.8  | 13.8 | 14.6 | 15.9 | 10.0 | 11.0 | 8.0 | 5.1 | 2.6 | 2.4 | 1.3 | 1.1 | 0.1 | 0.1 | 1.00 |

これは正味10か月に満たない実験であって教師の指導法が安定した後の学力の向上に、むしろ期待するものがある。

#### C 全国学力調査（小・中学校の部）

##### a, 調査の概要

###### (1) 目的

この調査は、「小学校、中学校における児童、生徒について、いろいろの角度から見た学力の実態を全国的な規模で明らかにして、学習指導、教育課程および教育条件の整備、改善に役立つ基礎資料を作成することを目的とする」と文部省より説明されてありますが、以上のような目的をもって実施される文部省の全国学力調査を、本県としては次のような条件設定により、これを実施した。「小、中学校については標本校をもって本県の縮図と見なして、学力の実態を明らかにする。」

###### (2) 調査の対象・教科・標本・所要時間

標本の抽出には、小、中学校は学校規模に層化した層化無作為抽出法を用いて抽出し、抽出された学校の全員を調査対象とする方法が取られた。

##### 調査の対象、教科、標本、所要時間

| 種別  | 学年 | 科目 | 対象校 |        | テスト<br>所要時間 |
|-----|----|----|-----|--------|-------------|
|     |    |    | 学校数 | 標本人員   |             |
| 小学校 | 6  | 社会 | 30校 | 2,909人 | 60分         |
|     |    | 理科 | 30校 | 2,909人 | 60分         |
| 中学校 | 3  | 社会 | 18校 | 1,408人 | 60分         |
|     |    | 理科 | 18校 | 1,408人 | 60分         |

###### (3) 調査の期日

昭和35年10月5日（水）午前中

###### (4) 調査の方法

調査（テスト）の全般的管理、運営の任に当り、テストの厳正を期するため、教育調査研究所員、出張所員を教育委員会がテスターに委嘱し、またテスト補助員として、その学校より、児童生徒および教科に比較的関係の少ない教職員を選び、テスト時間中管理、監督を担当することにした。